

病気や事故で

脳にダメージを受けてから…



- 「新しいことが覚えられない」
- 「ついさっきの出来事が思い出せない」
- 「物の置き場所を忘れる」
- 「何度も同じ話をする」

記憶障害



- 「注意力がない」
- 「集中力がない」
- 「同時にいくつものことができない」
- 「同じ間違いを繰り返す」
- 「不注意によるミスや怪我が多い」

注意障害



- 「順序立てた行動ができない」
- 「行き当たりばったりの行動をする」
- 「予定外の状況になると混乱する」
- 「1つ1つ指示されないと行動できない」

遂行機能障害



- 「些細なことで怒る・落ち込む」
- 「相手の気持ちに立って考えられない」
- 「1つのことに強くこだわる」
- 「我慢ができない」
- 「何もしたがらない」

社会的行動障害

もしかしたら、

高次脳機能障がいかもしれません

高次脳機能障がいとは

事故や病気によって、脳の一部が傷つき、社会生活を送るうえで大切な能力や、事故や病気の前に問題なくできていたことが難しくなってしまいます。ひとりひとり症状が異なるのも特徴で、別名『見えない障がい』と呼ばれ、本人も周りも理解するまでに時間がかかります。

(引用：『今日はくもり、明日は腫れ～みんなが読める、高次脳機能障がい7人の物語～』北海道大学病院リハビリテーション部、2022)

高次脳機能障がいの症状

1 記憶障害

新しい情報を覚え込むこと、保ち続けること、必要なときに引き出すことができない状態をいいます。

記憶障害は、脳損傷に伴う後遺症として 非常によくある症状です。

最大の問題は、発症後に新しいことを憶えることができなくなることです。



【主な症状】

- ・言ったこと、言われたことを忘れる。
- ・ついざっき起きたことが思い出せない。
- ・作業に妨害が入ると、何をしていたか忘れてしまう。
- ・人の名前、作業の手順が憶えられない。
- ・同じ間違いを繰り返す。

2 注意障害

注意を向けること、集中すること、話の脈絡についていくことなどができない状態をいいます。

【主な症状】

- ・注意を向ける体力がない。
- ・気が散りやすい。
- ・物事に集中できない。
- ・課題を終わらせるまでにすごく時間がかかる。
- ・注意散漫である。
- ・騒がしいとミスが多くなる。
- ・話についていけない。



3 遂行機能障害

論理的に考えること、計画すること、問題を解決すること、推察すること、

考えたうえで行動することができない、またそれらを振り返り、反省することができない状態をいいます。



【主な症状】

- ・要点を絞り込むことが難しい。
- ・一つ以上の考えが思いつかない。
- ・何を最初にしていいか優先順位がつけられない。
- ・より良い方法を選択できない。
- ・自分で目標を設定することが難しい。
- ・段取りがつけられない。

4 社会的行動障害

性格の変化や怒りなど感情のコントロールの障害、意欲の減退、依存的行動など、病気や事故の前と人が変わったようになり、さまざまな問題が起こす状態をいいます。

(1) 意欲・発動性の低下

やる気が出ない、力がわかない、自分から物事を始められない状態です。

「自分から」何かを「始める、動く、発想する」ことができません。

【主な症状】

- ・何もする気が起きない。
- ・話を広げられない。
- ・表情が硬い。
- ・物事を始められない。
- ・考えやアイデアが浮かばない。
- ・他人に興味がない。
- ・自分から起きてその日の準備をすることができない。

(2) 抑うつ

気分が落ち込んで晴れ晴れとしない状態です。

【主な症状】

- ・落ち込みやすい。
- ・些細なことに不安を感じる。
- ・自信が持てない。

(3) 依存性・退行

実年齢よりも明らかに幼い言動をする状態です。

【主な症状】

- ・態度や言葉が子どもっぽい。
- ・すぐ人に頼る。
- ・両親や信頼している人と離れることを極端に嫌がる。

(4) 脱抑制・易怒性

衝動や感情を抑えることが難しい状態です。

【主な症状】

- ・後先を考えずに話す、行動する。
- ・してはいけないとわかっているのに、その欲求を抑えることができない。
- ・自分1人では冷静になれない。
- ・際限なく食べる、お金を遣う。
- ・すぐに怒る。



(5) 固執性

1つのことにこだわりを持ち続け、他のことに柔軟に対応できない状態です。

【主な症状】

- ・1つのことにこだわり、他のことができない。
- ・一度決めたことを状況に合わせて変更できない。
- ・説明されても納得しない。
- ・同じ動作をすることにこだわる。

5 その他の障害

高次脳機能障がいの方の中には、記憶障害、注意障害、遂行機能障害、社会的行動障害 以外にも、次のような症状をもつ方がいます。

(1) 失語

他人の考えを理解することや、自分の考えを表現することが難しい状態です。

聞く、読む、話す、書くなどの 言語機能が働かなくなります。

【主な症状】

- ・言い間違いが多い。
- ・話を聞いているようだが、理解していない。
- ・片言で話す。
- ・本を読んでも内容が理解できない。
- ・本人は流ちょうに話しているつもりだが、周囲は理解できない。
- ・言われている内容が理解できない。
- ・質問に正しく答えられない。
- ・言いたい言葉が出てこない。
- ・文字を正確に書けない。

(2) 失行

運動麻痺や感覚障害がなく、行うべき行動を理解しているにもかかわらず、それができない状態です。

自分でやろうとしていることと違うことをしてしまいます。

【主な症状】

- ・日常的に使う道具が上手く使えない。
- ・道具の使い方を間違える。
- ・服の着方がわからない。

(3) 失認

感覚障害や知能低下がないにも関わらず、人や物、音を正しく認識することができない状態です。

【主な症状】

- ・聞こえているが、それが何の音かわからない。
- ・見えているが、それが何かかわからない。
- ・体の左右どちらか一方をよくぶつける。
- ・自分の体や物を認識できない。

(4) 見当識障害

人や周囲の状況、時間、場所など

自分自身が置かれている状況などを正しく認識できない状態です。

【主な症状】

- ・季節や日時がわからない。
- ・自分がいる場所がわからない。

(5) 易疲労性

肉体的にではなく、精神的に疲れやすい状態です。

神経疲労ともいわれます。

本人は疲労に全く気づいていない場合があります。

【主な症状】

- ・日中起きていることができない。
- ・常に眠い。
- ・1つ1つの動作が遅い。
- ・以前より仕事に時間がかかり、時間内に終わらない。
- ・起きていてもぼーっとしている。
- ・あくびばかりする。
- ・すぐに休む。

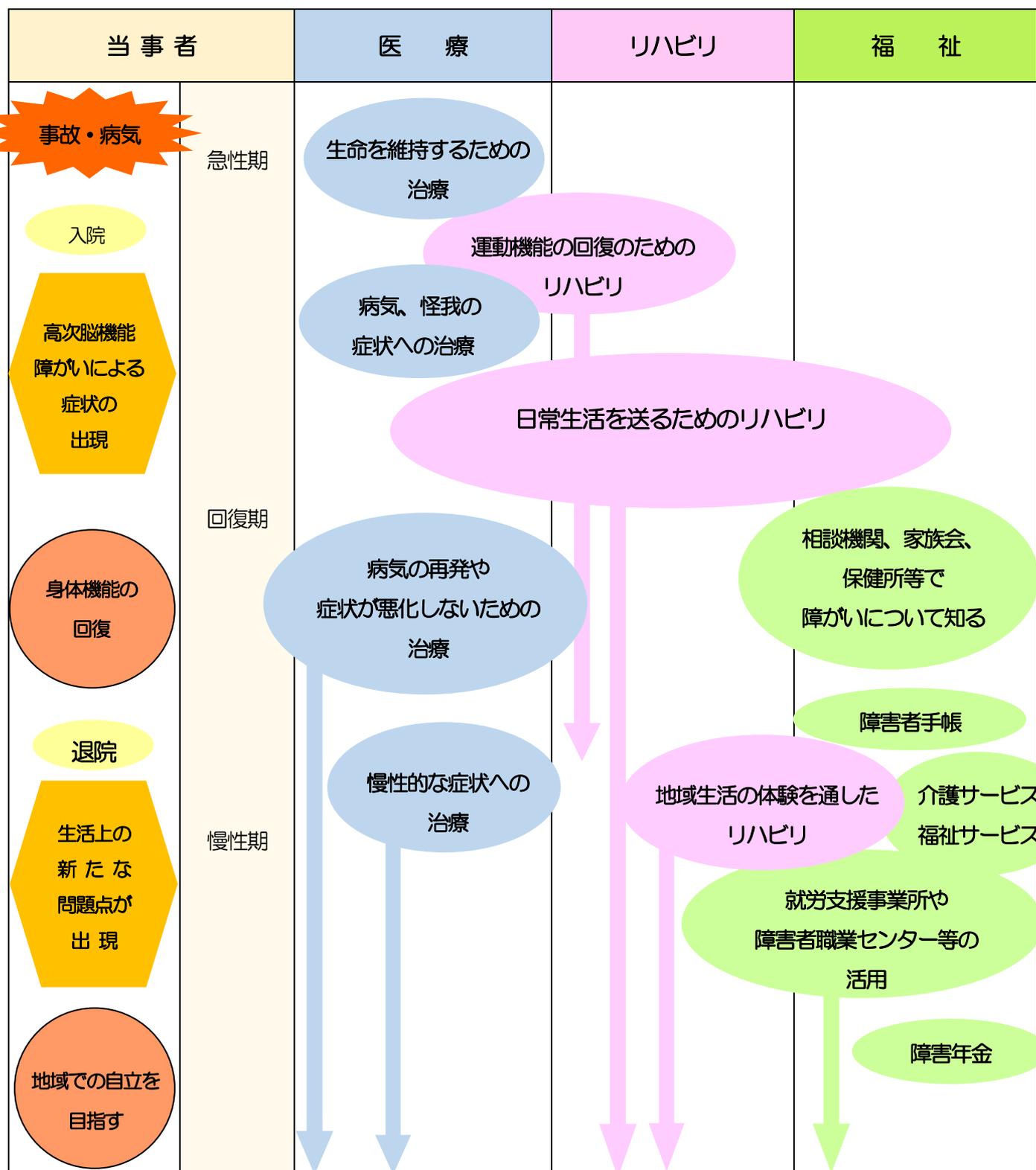
(6) 病識欠如

自分自身の障がい気がつかず、説明もできない状態です。

【主な症状】

- ・自分の障がいを否定する。
- ・無理に車の運転をしようとする。
- ・自分に起きる問題について、自分ではなく周囲に原因があると思う。
- ・治療やリハビリを拒否する。
- ・自分の症状を気にしていない。

高次脳機能障がいの方がたどる経過（経過には個人差があります）



障がいとともに当事者・家族が安心して生活できるための方法を探していく